

第2回「安心・元気・未来創造ビジョン2024」推進委員会 委員意見一覧

日時：令和7年2月19日（水）10:00～12:00
場所：レンブラントホテル大分 2階 二豊の間

議事：令和7年度当初予算案について

No.	分野	発言の要旨	県の考え方
1	安心1	○避難行動要支援者について ・個別避難計画の策定状況について、令和6年4月1日時点で要支援者27,880人に対し、13,311人が計画作成済と聞いているが、その後の策定状況を聞きたい。	令和7年1月時点で、避難行動要支援者29,070人のうち14,040人の個別避難計画を作成し、作成率は全国上位の48.3%となっています。 個別避難計画の早期作成に向け、引き続き市町村と共に取り組んでまいります。
2	安心3	○県営住宅の拡充について ・経済力の低い家庭の居住地というのは非常に難しい問題。今回、広い間取りへの改修を行っていただくとのことだが、24棟60戸はまだ少ないと思う。さらなる拡充をお願いしたい。	県営住宅における広い間取りへの変更は、住戸の空き状況を勘案しながら進めているところです。今年度からは県内全域に拡大し、令和15年度までに500戸の整備を予定しており、国への予算要望をしっかりと行いながら、引き続き計画的に整備を進めてまいります。
3	安心3	○認定こども園について ・近隣の認定こども園が閉園になる予定があり、乳児の預かりが出来なくなっているが、予算は増えている。しっかり分配していただきたい。	認定こども園等の保育施設は、各市町村がニーズを見込み、計画的に整備しており、県は計画に基づき運営されるこども園等に、市町村を通じて運営費を適切に配分しています。委員ご指摘の豊後大野市の認定こども園については、入所希望者の減少に伴う運営法人の判断により令和7年3月に閉園する予定ですが、園児は近隣の系列園等で受入予定です。
4	安心3	○子育て支援について ・子育て世代の方にどのような支援が一番いいのかということを知りたいが、ワンストップで役所の子育て支援を受けられるようにしてほしいという声をたくさん聞いている。	令和6年度から、子育て支援のワンストップ窓口として県内14市町村にこども家庭センターが設置されており、保健師や専門の相談員が、妊娠期から子育て期にわたる総合的な相談に応じています。 残る4市町についても現在整備中であり、令和8年度中には県内全ての市町村で設置される予定です。
5	安心3	○魅力ある公園づくりについて ・子育て世代の方から、県内の魅力ある公園が少ないという声がある。魅力ある公園づくりをぜひ進めていただきたい。	老朽化した遊具の更新を進めるとともに、地域のニーズに合った公園の再編や民間活力を取り入れた公園整備など、県のみならず市町とも連携しながら、魅力ある公園づくりを進めてまいります。
6	安心4	○おおいた歩得（あるとっく）について ・私も利用していてゴールド会員だが、どういったメリットがあるかわからない。更新を控えているということで、わかりやすいアプリになることを期待している。	今年3月に機能の充実を図った新アプリ「あるとっく」が完成し、配信と試験運用を開始しています。 歩数集計など現行アプリの要素を継続させつつ、貯めたポイントを使って飲食店などの協力店でサービスを受けたり、景品抽選に応募できるような機能や、生活習慣や健診などの記録、コラムや動画で健康づくりに有益な情報を得ることなどができる機能を新たに追加しました。 4月の本格稼働後も利用者にメリットを感じていただけるよう運用してまいります。

第2回「安心・元気・未来創造ビジョン2024」推進委員会 委員意見一覧

日時：令和7年2月19日（水）10:00～12:00
場所：レンブラントホテル大分 2階 二豊の間

議事：令和7年度当初予算案について

7	安心4	<p>○薬剤師化確保対策事業に関連して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内病院薬剤師不足解消を図るための「薬学系大学生への返還免除付き修学資金の貸与」を、将来的には、分野を問わない形に拡大させて欲しい。大分県内への若年層の人材確保の方法として、医学部の地域枠入試のように卒業後に大分県内に就職することを強い条件にし、県内大学に進学してきた他県からの学生も含めて、返還免除の修学資金（入学金・授業料・生活費の全部あるいは一部）を提供してはどうか。 	<p>様々な分野で人材不足が深刻化する中、民間企業での奨学金返還支援制度の状況や、学部を限定しない返還免除型の修学資金貸付制度を導入した場合の費用対効果などを整理する必要があると考えています。</p> <p>他自治体での先行事例や関連する制度などについて、今後研究していきたいと考えています。</p>
8	安心4	<p>○介護現場のDX導入について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の会議でDX導入への積極的な支援をお願いしたが、6年度の積極的な採択に加え、7年度予算ではより効果的なパッケージ型導入支援を新たに設けるなど、積極的な予算に感謝。 	<p>介護現場のDX導入意欲は年々高まっており、県としてもこれまで、補正予算も活用しながら積極的な後押しを行い、介護施設（特養・老健）への介護ロボット導入率は85%（167/196施設）に達しています。</p> <p>目標最終年度となる令和7年度は、目標達成はもとより、より効果的な機器導入による更に質の高い介護現場づくりを促進し、介護人材の確保に繋げてまいります。</p>
9	安心5	<p>○障がいや難病等のあるこどもへの支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後等デイサービスの待機児童が増えている中、利用要件を厳しくする方向で検討が進んでいると聞いた。また県内の発達医療に関わるセンターも医師不足で新たなこどもの受け入れができない状態であると説明をうけた。困難を抱えたこどもに対する支援を再考いただきたい。 	<p>市町村において、個々のニーズに応じた放課後等デイサービスの支援の在り方を検討する動きが一部ありますが、一律に利用要件を厳しくすることは検討していないと聞いています。なお、国・県においては、利用要件を厳しくするような検討は行っていません。</p> <p>県としては、医療的ケア児や発達障がい児といった、専門的・広域的支援が必要なこどもが早期に適切な療育が受けられるよう、地域の児童発達支援センター等に対する支援を強化していきます。</p>
10	元気1	<p>○園芸産地づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園芸について重点品目に絞って支援をするのは良いが、補助率が下がる等変更があった事が周知されていない。 	<p>園芸産地を担う中核的経営体の育成に向けて、補助事業の予算成立後、補助率の変更等について、速やかに市町村や農業団体、振興局等を通じて、関係者の皆様へ周知を行います。</p>
11	元気1	<p>○コメの価格について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメの価格高騰が大きな問題となっているが、コメが投機の対象になっているようだ。国が備蓄米21万トンの放出を発表したが、農業団体としては60キロ2万円を超すぐらいの価格で安定してくれると助かる。 	<p>米価は、商取引による決定が基本であり、適正な流通により米価が安定することを期待します。</p> <p>県では、需要に応じた特色ある産地づくりに向けて、良食味米など実需者に選ばれる米づくりや、気候変動に対応した高温耐性品種の導入拡大を農業団体と共に推進します。</p>
12	元気1	<p>○ランピースキン病について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ランピースキン病に感染した乳牛が福岡県で相次いで確認されている。大分県では今のところ確認されていないが、予防対策に力を入れてほしい。 	<p>福岡県で発生しているランピースキン病について、現在早急に対策するため、防虫剤の配布など病気を媒介するサンバエ対策を実施しているところです。関係団体と一緒に予防対策を行っていきます。</p>

第2回「安心・元気・未来創造ビジョン2024」推進委員会 委員意見一覧

日時：令和7年2月19日（水）10:00～12:00
場所：レンブラントホテル大分 2階 二豊の間

議事：令和7年度当初予算案について

13	元気1	○農作物の暑熱対策について ・ 昨年の猛暑で短期集中県域支援品目等の園芸品目において生産が悪く、農業団体として暑熱対策を検討しているところ。県にも支援をお願いしたい。	農家の生産性向上と経営安定を図るため、次作での猛暑対策として、遮光資材の導入等を市町と連携して緊急的に進めています。高温に対応した生産技術の指導と合わせた対策を強化していきます。
14	元気1	○日韓中小企業博覧会等について ・ 以前、福岡県で毎月1回、日韓中小企業博覧会を開催されており、農業や食品産業等に関係する方々が交流し、直接つながる場があった。そういった場が大分県でも過去または今後あるのかをお聞きしたい。	県内では、民間のメーカー、企業を中心とした農業機械や施設園芸の展示会が行われています。また、酒や醤油、県の農産物を活用した加工品について、パイヤー等を招聘した商談会を、農林水産部と商工観光労働部が連携して実施しています。
15	元気2	○BCP策定支援について ・ 企業誘致した、特に中小企業ではBCP策定に人員を割く余裕がないと聞いている。誘致企業が継続的に事業ができるよう支援を行っていただきたい。	中小企業において、BCP策定のために人員を割く余裕がないことは県でも認識しているところです。県としては、中小企業向けの策定ツールとして、自然災害対応型等の策定の手引き、ひな形、モデル事例集を作成公開しています。また、中小企業等を対象にBCPについてのセミナーやワークショップを開催し、周知・啓発をするとともに策定支援を行っています。今後も、誘致企業を含めた中小企業が事業継続できるよう策定支援を行っていきます。
16	元気2	○中小企業への支援について ・ 賃上げをすることでさらに経営が苦しくなる家族経営や利益がぎりぎり経営している中小企業が非常に多くある。各種補助金の賃上げ枠の設定において、補助要件(システム導入等)に対応が難しい企業に対しても支援をお願いしたい。	原材料価格の高騰や人手不足などにより、中小企業や小規模事業者が直面する状況は依然として厳しいものとなっています。持続的な賃上げには、営業利益の向上による賃上げ余力の創出が必要であることから、県では、生産性の向上や適切な価格転嫁の推進、金融面からの下支えをすることなどに取り組み、中小企業や小規模事業者の持続的な発展を後押ししていきます。
17	元気2	○商工団体への支援について ・ 持続的な賃上げをやろうとしているが、商工会の3割以上が価格転嫁できていない状況。地域振興、地域経済活性化のため、商工団体へのさらなる支援をお願いしたい。	活力ある地域づくりを支援するため、令和7年度、商工会等の青年部・女性部（会）が実施する地域振興に向けた取組への補助を拡充することとしています。また、商工会職員の機能的配置や中小機構等の支援の活用推進など、商工会等の支援体制の強化を図り、小規模事業者への伴走型支援の充実に努めてまいります。
18	元気2	○人材の確保・育成について ・ 育休代替の人材がないので夫が育休を取れないといった声を聞く。産業人材センターの機能を強化されるので、そうした人材の確保・育成ができるよう柔軟に活用していただきたい。	おおいた産業人財センターでは、企業支援部門を新設し、人材確保・定着に関するコンサルティング支援や企業向けセミナーの開催などにより、県内企業が抱える様々な課題にワンストップで対応します。加えて、企業と若者の交流拠点を設置し、マッチング機能を強化します。センターを多くの企業に活用してもらえよう、大分労働局とも連携し、しっかりと取組を周知していきます。

第2回「安心・元気・未来創造ビジョン2024」推進委員会 委員意見一覧

日時：令和7年2月19日（水）10:00～12:00
場所：レンブラントホテル大分 2階 二豊の間

議事：令和7年度当初予算案について

19	元気3	<p>○大分県のPRについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・韓国では、旅行先として別府や湯布院は知られているが「大分県」の知名度は低い。外国人向けに大分県をPRする短くて面白いコマーシャルを発信してほしい。 	<p>本県の認知度を高めるプロモーション動画の制作は、H25からR5まで実施し、「日本一のおんせん県おおいた 味力も満載」のキャッチフレーズも浸透し、温泉といえば大分県というイメージは定着してきたものと認識しています。県内には、別府や湯布院以外にも魅力的な温泉地や旅行先があることから、観光局とも連携しながら、周辺地域の誘客につながるような情報発信を進めていきます。</p>
20	元気3	<p>○大分県のPRについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分県の学生が東京で、県の観光についてアンケートをした結果、温泉以外の回答がほぼなかった。おいしい食べ物や自然などいろいろな魅力があることをしっかりPRしてほしい。 	<p>本県を訪れたことがない遠方の方への情報発信が課題と認識しており、特に本県の認知度が低い首都圏等の20代～40代の女性をターゲットとしたWebマガジン「edit Oita」により、温泉のほか、グルメ情報や工芸品、アクティビティといった情報を発信し、認知度及び魅力度の向上に取り組んでいます。加えて、県公式のSNSを活用した情報発信や、デジタル広告等を活用した情報発信を強化しています。</p> <p>また、観光ニーズが多様化する中、更なる誘客を図り、本県観光産業を発展させていくためには、様々な観光素材の磨き上げが重要と考えています。市町村や観光関係者と連携しながら、温泉プラスアルファの魅力がある観光地域づくりを推進し、効果的な情報発信に努めます。</p>
21	元気3	<p>○大阪・関西万博のレガシー利活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・万博が終わったあとに、世界各国のパビリオン等の展示物を大分県に持ってきて展示や利活用ができないか模索してほしい。 	<p>万博を契機として、本県とゆかりのある国・地域からの訪問団を大分県に招致するなど交流を検討しています。また、その中で万博展示物の利活用についても協議・検討します。</p>
22	元気3	<p>○大阪・関西万博への出展について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月から10月までの万博期間において、9月3日から5日までの出展は遅いと感じた。開催期間前半の方が良いのではないかと。 	<p>自治体催事に係る出展期間については、日本国際博覧会協会及び九州7県で調整したものです。なお、5月に万博会場内で行われる地方創生SDGsフェスに出展するほか、大阪市内にて県独自のイベントを実施するなど、この機会を活用し、情報発信を行うこととしています。</p>
23	元気3	<p>○地域への誘客に向けた更なる支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域への観光誘客に向けて一層手厚い支援をお願いしたい。 	<p>各地域の魅力発信に取り組むとともに、自然、伝統文化、食等を活用したアドベンチャーツーリズムやガストロノミーツーリズム等、地域の特色を生かした着地型商品の造成・販売促進支援を通じ、県内各地への誘客を後押しします。</p>
24	元気3	<p>○宇佐神宮御鎮座1300年を軸にした発信について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇佐神宮御鎮座1300年は非常に大きな転換期であると考えている。こういった機会にあわせて、食や歴史、文化をしっかりと伝えていくことで大分県全域がPRできるのではと思う。 	<p>宇佐神宮御鎮座1300年や4月から開催される大阪・関西万博は更なる観光誘客のチャンスと捉えています。この機会を活用して多くの観光客を誘客するため、万博来場者もターゲットに見据えながら国内外へ県内の様々な食、歴史、文化等もPRし、本県への誘客・広域周遊を促進していきたいと考えています。</p>

第2回「安心・元気・未来創造ビジョン2024」推進委員会 委員意見一覧

日時：令和7年2月19日（水）10:00～12:00
場所：レンブラントホテル大分 2階 二豊の間

議事：令和7年度当初予算案について

25	元気3	<p>○持続可能な観光に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光は、インバウンドで見れば、現在の3,700万人が2030年には6,000万人となり消費額は15兆円規模になる転換期である。地域に住んでいる人が観光によってマイナスになるのではなく、観光によって、関係人口が増えたり、二地域居住や新たな産業が興るなど、暮らしている人にとってプラスになる事業を戦略的に考えていく必要がある。 	<p>現在策定中の新たなツーリズム戦略では、「経済・環境・社会における持続可能な観光地域づくり」を推進指針の柱としています。</p> <p>地域住民と観光客双方の満足度を高めながら、地域資源や自然環境を将来にわたって維持するとともに、地域経済にも好循環をもたらす、持続可能な観光地域づくりに努めます。</p>
26	元気4	<p>○外国人労働者の受入整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人材の確保は、様々な産業において重要となっており、介護等福祉分野についても同様。商工観光労働部の事業であるが、就業環境整備等への助成は福祉分野も対象と聞いており、私どもも福祉施設へのPRを行っていくので、県でもPRをお願いしたい。 	<p>外国人労働者の就労・居住環境の改善やコミュニケーション促進に係る補助については、福祉分野を含め建設業、製造業、宿泊業、農業など幅広い事業者を活用いただいています。より多くの事業者を活用いただけるよう、引き続き、PRに力を入れていきます。</p>
27	元気4	<p>○外国人労働者の受入れについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他県ではあるが、技能実習生を積極的に取り入れていた県で、言語の問題で多くの就業トラブルが発生していた。大分県も受入体制を強化していく中でそういった問題への相談体制も考慮いただきたい。 	<p>令和7年度、企業向けの外国人雇用に関する総合相談窓口を開設する予定であり、相談内容に応じて、外国人総合相談センターや労働相談窓口など関係機関とも連携しながらサポートを行っていきます。</p>
28	元気7	<p>○県立フェンシング場の整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より良いフェンシング場の整備を行い、全国大会誘致を。世界で活躍する大分の選手を地元で観戦したり練習を共にする場所を整備していただきたい。 	<p>県立フェンシング場は、令和7年度、ピスト（試合用コート）を日本フェンシング協会公認のものへの更新や施設器具の保管倉庫の設置等を行い、より良い練習環境の整備を進めてまいります。また、観戦や交流の場所として、可動式のピストを備えた県立武道スポーツセンターがあります。全国大会の誘致にあたっては、県内競技団体と十分協議を行っていきます。</p>
29	未来創造1	<p>○東九州新幹線のルートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東九州新幹線のルート案について、福岡県では日豊本線を基本とした期成会の設立を前向きに検討するといった話や、四国新幹線では岡山ルートに一本化されて、一気に気運が醸成している。大分でも2つのルート案を一本化して気運の盛り上げを図り、近隣県とも連携していく時期に来ているのではないかと。 	<p>ルート案について、北陸新幹線等で整備計画格上げ後も複数案が提示され、着工間際まで協議が行われていることから、本県では、広域交通ネットワークの意義やあり方等について丁寧に議論を進め、県民の理解を深めていきます。また、4県1市期成会を基軸に国への要望活動や機運醸成等に取り組んでおり、引き続き、関係地域が一丸となって整備計画路線への早期格上げを目指していきます。</p>
30	未来創造1	<p>○東九州新幹線のルートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東九州新幹線のルートは、長計のいろいろな取組に関わる非常に大きな要素であり観光戦略や産業振興にも大きく影響してくる。ルートの選定はなかなか難しいが、長計の10年間の初期段階で少しでも方向性が見えればよいと思う。 	<p>現在の整備計画路線は着実に進捗し、未着工区間が残り2か所となる中、次の整備計画が策定される期待が高まっています。このため、「ビジョン2024」の未来創造分野の政策に「広域交通ネットワークの充実」を盛り込み、10年後の目指す姿に東九州新幹線などが整備計画路線になっていることを掲げており、早期実現に向けて全力で取り組んでいきます。</p>

第2回「安心・元気・未来創造ビジョン2024」推進委員会 委員意見一覧

日時：令和7年2月19日（水）10:00～12:00
場所：レンブラントホテル大分 2階 二豊の間

議事：令和7年度当初予算案について

31	未来創造1	<p>○広域交通ネットワークの機運醸成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東九州新幹線、豊予海峡ルートの実現に向けた気運醸成は、九州・四国だけではなく、万博もあるので関西にもしっかり訴えていくことが大事。九州のためではなく関西、日本全体に価値があることを広めていただきたい。 	<p>東九州新幹線、豊予海峡ルート等の広域交通ネットワークは、地域経済の成長力強化や広域観光圏の創出、災害時のリダンダンシー確保など、日本全体に大きな効果があることから、九州だけでなく四国・中国・関西の各県・団体とも連携し、機会を捉えて整備効果等を情報発信していきます。</p>
32	未来創造1	<p>○大分空港の活性化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホーバークラフトの定期便運航がまもなく始まるが、ホーバークラフトを利用して大分空港に行く人が増えると思う。交通結節点としての位置付けにもなるので、大分空港のさらなる活性化を図っていただきたい。 	<p>大分空港の活性化に向け、空港のアクセスを改善するためには、ホーバークラフトの安定的な運航が重要です。県としては、2次交通の確保や、広く県内外への魅力発信、ホーバーターミナルの賑わい創出等を図り、ホーバークラフトの就航及び安定運航を支えていきたいと考えています。</p>
33	未来創造1	<p>○国内線の拡充について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際線だけではなく、今は国内線も搭乗率がいいはず。ホーバークラフトの定期便が就航するタイミングでもあるので、チャーター便含めて国内線の拡充を大きく訴えかけていただきたい。 	<p>国内線の拡充に向けて、令和7年1月に大分空港から沖縄に行くチャーター便を運航しました。170席を用意したところ、販売開始から21日間で完売するなど、好調でした。 将来的な沖縄との定期便再開に向けて、今回のチャーター便のような取組を継続し、実績を積み上げていきたいと考えています。</p>
34	未来創造1	<p>○大分空港の遅延について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際線の遅れが国内線に影響しているのか、羽田の混雑の影響か、大分空港の遅延が多く、その後のバスなどの予定が組みづらい。しっかり整備していただきたい。 	<p>気象の影響や他空港の混雑など様々な要因が考えられますが、委員ご指摘の内容を運航を担う航空会社に伝えます。引き続き大分空港の利便性向上に努めていきます。</p>
35	未来創造1	<p>○交通網について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分県は道路交通網のつながりがまだまだ弱いと思う。東九州で四国とも非常につながりやすい地域なので、交通網の強化をお願いしたい。 	<p>引き続き、東九州自動車道の4車線化、中九州横断道路や中津日田道路など高規格道路の早期完成に向けた整備を推進してまいります。 また、本県と四国を繋ぐ豊後伊予連絡道路についても、構想の実現に向けて、関係県・団体と連携し機運醸成を図り、国へ強く働きかけていきます。</p>
36	未来創造1	<p>○地域の公共交通について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人には大分市や別府市などは交通の便がいい地域が選ばれる。一方、技能実習生が多い田舎の地域は、バスがないなど不便なので地域の公共交通がもう少し便利になればいい。 ・今年度から日本語検定試験が日曜午前から始まるようになった。田舎から行くには駅まで1時間近くかかり、日曜にバスのないところもあり、受験会場までの移動が大変な状況を何とかしてほしい。 	<p>乗務員不足や利用者の減少などから路線バスの運行が困難な地域では、それぞれの実情に応じて自治体により、コミュニティバスやデマンド交通などの公共交通が整備されています。 そうした中、佐伯市米水津では、昨年、高齢者や外国人技能実習生等の交通弱者を主な対象として、米水津地域コミュニティ協議会のメンバーによる、無料のデマンド型乗合運行の実証が行われたところでした。その実施結果などを参考にしながら、今後とも地域の実態にあった交通弱者の足の確保策について検討していきます。</p>

第2回「安心・元気・未来創造ビジョン2024」推進委員会 委員意見一覧

日時：令和7年2月19日（水）10:00～12:00
場所：レンブラントホテル大分 2階 二豊の間

議事：令和7年度当初予算案について

37	未来創造2	<p>○おおいた移住定住促進事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住者にとって非常に良い取組みであるが、子育て中で縁者もいない地域に引っ越すのは心配もあるので、病児保育の充実を共に進めていただきたい。 	<p>施設整備補助金により新規施設の開設、既存施設の定員拡大に取り組んでおり、現在、県内17市町で32の病児・病後児保育施設が運営されています。</p> <p>令和3年10月からは、施設の空き状況を24時間確認でき、仮予約までが可能なオンライン予約システム「あずかるこちゃん」を九州で初めて導入しています。居住市町村を超えた広域利用を可能とすることで、利用者の利便性向上も図っており、現時点で県内全域での広域連携を実現しているのは、全国でも大分県を含む3県のみとなっています。</p> <p>引き続き、市町村と連携しながら、子育て世代の仕事と育児の両立を支援してまいります。</p>
38	未来創造3	<p>○大分県版カーボンニュートラルの推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今般地球温暖化対策計画や第7次エネルギー基本計画が閣議決定され、さらなる脱炭素化を図っていくことが求められる。また、排出量取引制度が今後法制化され、脱炭素先行地域も取組が進んでいくと思うので、国の方針に沿って、排出量取引や脱炭素先行地域の促進といったことをぜひ図っていただきたい。 	<p>県では、令和7年度に第6期大分県地球温暖化対策実行計画の策定を予定しており、その中で、国の計画や最近の動向を踏まえた地域脱炭素の促進を図っていきます。</p>
39	未来創造4	<p>○自動運転技術について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動運転レベル4の実装を始めている他県の事例も出てきているので、自動運転技術を広めていく必要がある。 	<p>限られた人員で地域公共交通を維持できるよう、DXによるサービスの効率化を図るため、コミュニティバスなどに対して自動運転の実装に挑戦する市町村を令和7年度から支援します。</p>
40	未来創造4	<p>○先端技術の活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度に始まった先端技術挑戦プロジェクト産学連携創出支援事業は、何年度まで続ける予定か。 ・また、先端技術を活用するのであれば、AIやドローンといった世間でよく取り上げられる技術以外のものでも良く、地域課題の種類としては、医学・薬学、農林水産業、土木・建築といったメジャーな分野に限定しないと捉えて良いか。 	<p>研究開発に関し最大2年間の支援を行うことができる制度としているため、現時点では令和10年度まで続ける予定としています。</p> <p>各分野の事業の中で技術革新に対する支援を行っておりますが、先端技術の幅を狭めて支援するということがないよう、多様な分野の技術革新が実現するよう努めていきます。</p>
41	未来創造4	<p>○次世代空モビリティについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空飛ぶクルマの実証は、県も非常に力を入れているが、県内企業が産業として興していくにはまだリスクが大きいと思う。県内企業であれば、リスクヘッジという意味で補助率を上げるなど考えていく必要がある。 	<p>次世代空モビリティ事業で創設している補助金制度については、先行自治体である大阪府や兵庫県を参考に補助率を設定しており、県外企業でも利用可能なビジネスモデルの検証に関する補助金は補助率2分の1としています。</p> <p>また、県内企業が行う技術開発支援補助金については、県他事業の研究開発支援制度と同様に補助率3分の2としています。</p> <p>今後とも、県内の産業振興を推し進めていく上で、県内企業にもより参画し易い制度設計に努めていきます。</p>

第2回「安心・元気・未来創造ビジョン2024」推進委員会 委員意見一覧

日時：令和7年2月19日（水）10:00～12:00
場所：レンブラントホテル大分 2階 二豊の間

議事：令和7年度当初予算案について

42	未来創造5	<p>○グローバル人材の育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分東高校の生徒さんがフランスに渡航された話を聞いて、やはり海外経験が必要だと思った。 	<p>グローバル人材の育成については、スタンフォード大学やAPUの協力のもと遠隔の講座を行っています。令和7年度は、実際の海外体験を増やすため、現地の学校との交流等への経費について新たに支援を行っていきます。</p>
43	未来創造5	<p>○遠隔教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立高校での遠隔教育は、特に周辺部の高校で難関校の授業を受けられるという意味で、取組として非常に期待が大きい。 	<p>どの地域においても、生徒自らの可能性を最大限に伸ばし多様で質の高い高校教育を提供できるよう、引き続き取り組んでいきます。</p>
44	未来創造5	<p>○物理教員の確保について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理系人材の確保していくうえで、担当教員がいないので物理の授業を選択する普通科の生徒が少ないといった話がある。周辺部の高校で物理などの科目を担当教員がいなくても遠隔授業で受けられるようにするような活用を将来的に考えていただきたい。 	<p>普通科高校においては、教育課程に応じて教員を配置しており、希望する生徒が物理を選択できる環境を整えています。 遠隔授業でも、R8年度から物理・化学の配信を行う予定にしていますので、実施に向けて準備を進めていきます。</p>
45	未来創造5	<p>○人材定着について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府では府内在住者を対象とした大阪公立大学の無償化により、若い人材の定着促進を進めているが、優秀な学生を県内につなぎとめる取組が非常に大事。 	<p>大阪府などの他自治体の状況や国の高等教育無償化に関する動向などを注視するとともに、費用対効果にも留意しながら、今後も若年者の県内定着に向けた取組を検討していきたいと考えています。</p>
46	その他	<p>○全国への情報発信について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分県を東京や全国に発信する機会が少なく、情報のつながりが弱い。SNSの活用や大分を題材としたドラマ誘致等を通じて、情報を発信していただきたい。 	<p>県外への情報発信については、No.20での回答のとおり、WebマガジンやSNS、PR会社と連携した都市圏でのメディア露出などに取り組んでいます。 また、郷土の英雄である大友宗麟を題材にした大河ドラマを誘致することで、本県の歴史文化や地域の魅力を全国に発信するとともに、観光振興や地域経済の活性化に寄与するため、NHK大河ドラマ「大友宗麟」誘致推進協議会とともに、誘致活動を行っています。引き続き、関係者と連携して大河ドラマの誘致等に取り組んでいきます。</p>
47	その他	<p>○県庁の部局間連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員からの提案が、部局間連携含めワンストップでコーディネートできるような部局があると、いろいろな施策がさらに発展していけると思う。 	<p>ビジョン推進委員会でいただいたご意見・ご提案については、同委員会事務局（企画振興部政策企画課）から関係所属に共有し、関連施策の方向性等について委員に回答するとともに、県のホームページでも公表しています。また、施策の進捗状況等についても定期的に同委員会で審議いただく予定です。 今後も引き続き、委員の皆様のご提案等を踏まえ、政策・施策のフォローアップを行っていきます。</p>

第2回「安心・元気・未来創造ビジョン2024」推進委員会 委員意見一覧

日時：令和7年2月19日（水）10:00～12:00
場所：レンブラントホテル大分 2階 二豊の間

報告：第3期まち・ひと・しごと創生大分県総合戦略案について

No.	分野	発言の要旨	県の考え方
1		<p>○2 変化の激しい社会を生き抜く力と意欲を育む「教育県大分」の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校地学基礎の必修化と、高校地学の選択性導入を実現いただきたい。 環境教育では、気候変動を理解するための気象学・海洋学、自然災害に向かい合うための地震学や火山学、地史学等が十分に学習できない。 また、「高校地学基礎」・「高校地学」は、将来、土木や建設関係の仕事に就く人たちにとっても有用な科目である。 	<p>大学入学共通テストで「地学」を選択した全国の受験者の割合は1%未満にとどまっています。地学を学びたい本県高校生のニーズ把握に努めながら、遠隔教育での対応を研究していきます。</p>
2	I 【ひと】	<p>○3 健康長寿社会の構築と安心できる医療・介護の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高齢者が働きやすく培った知見を活かせる雇用環境の整備」について、健康長寿社会を構築する理由あるいは構築後の効果には、人口減少にともなう働き手不足の解消ということがありそうだったと思った。 現在のような人手不足の状況では、定年退職年齢は職種と本人の対応能力に応じて変動させてよいのではないかと考える。 	<p>定年年齢等については、法により「60歳以上」としなければならず、「65歳までの雇用確保措置」が義務、「70歳までの就業確保措置」は努力義務とされています。</p> <p>令和6年「高齢者雇用状況等報告（大分県）」によると、「65歳までの雇用確保措置」は9年連続で100%、「70歳までの就業確保措置」については、41.8%（全国3位）となるなど、本県の高年齢者の雇用環境整備は進んでいます。</p> <p>高齢者が働く意欲と能力に応じて年齢に関わりなく働き続けられるよう、引き続き求職者本人の適正と能力に応じた丁寧なマッチング支援や、企業へのシニア雇用の意識啓発を実施していきます。</p>
3	IV 【ひとやもの流れ】	<p>○5 地域の特色を活かしたツーリズムの推進と観光産業の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おんせん県ならではの地域資源」という表現は「地域資源＝温泉や地熱」と受け取れるがそうでないとも取れる曖昧な表現だと思う。 仮に温泉だとすると、ふんだんにある温泉をただ利用するにとどまっていて活用するレベルの提案にまで押し上げられていないように思える。 	<p>本県には、温泉をはじめ、自然や歴史・文化、芸術など多岐にわたる地域資源があります。豊富な地域資源の更なる磨き上げに取り組み、それらを積極的に活用したアドベンチャーツーリズム等の各種ツーリズムを推進していくことで、旅行者の満足度の向上や、持続的な地域づくりを進めていきます。</p>